

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(特別支援学校西日野にじ学園)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		・子どもたち一人ひとりの能力や特性に応じた教育をすすめ、自立と社会参加を目指します。 ・子どもたちが、社会の一員として明るく主体的に生きることができるよう、自立のために必要な知識・技能を育成します。
(2)	育みたい資質・能力(育みたい児童生徒の姿)	・自ら考え、意欲的に学ぶ子ども ・自分の成長に感謝し、自他のかけがえのない命を大切にすること ・基本的生活習慣を身につけ、心身共に健康で安定した生活ができる子ども ・コミュニケーション力や社会性を身につけ、社会的・職業的に自立する子ども
	ありたい教職員の姿	・専門性を身につけ、意欲的で熱意ある教育実践を行う教職員 ・互いを尊重し認め合い高め合うことができる教職員 ・常に自らの言動を振り返り、児童生徒や保護者・地域から信頼される教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	児童生徒：毎日の学校生活を安全・安心に楽しみたい。 自分の思いを受け止め、持てる力を伸ばしてほしい。 友だちや教職員など、いろいろな人とつながりたい。 保護者：楽しく、安全・安心な学校生活を送ってほしい。 子どもの思いを受け止め、一緒に考えてほしい。 卒業後の自己実現に向けて取り組んでほしい。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	○自治会・学校所在地住民等：どんな学校なのか、様子を知りたい。積極的に情報を発信するなど、開かれた学校を目指してほしい。 ○交流相手校：互いの子どもたちが、人権感覚を身につけられるような交流及び共同学習にしたい。 ○実習先・就労先：挨拶・働く意欲など、基本的に必要な力を身につけてほしい。実習から就労した後まで、継続して連携していきたい。	○自治会・学校所在地住民等：本校や子どもたちのことを、実際に見たり聞いたりして知ってほしい。 ○交流相手校：本校の子どもたちのことを理解したうえで、地域に住む仲間として関係を築いてほしい。 ○実習先・就労先：安全に、安心して意欲的に活動することができる労働環境や生活の場を提供してほしい。
(3)前年度の学校関係者評価など	・教職員の専門性の維持、向上は重要な課題である。教職員が自ら学べる研修の整備を積極的に進めてほしい。併せて、人権教育やコンプライアンスの遵守に係る研修等も計画的に実施してほしい。 ・児童生徒の自立と社会参加のためキャリア教育を推進するため、小学部から高等部まで取組を教職員間で共有して理解を深め合い、系統性のある指導・支援を実施してほしい。 ・学校の取組への理解が得られるよう、具体的に地域等へ発信してほしい。	

(4)現状と課題	教育活動	・キャリア教育の推進に向けて、各学部を取組を理解する機会を定期的に設定するとともに、高等部卒業後の姿を見据えた、連続性のある取組が実施できるよう、進路指導に関する取組について共通理解を図る必要がある。 ・地域等における障がい者理解を深めるとともに、児童生徒の自立と社会参加に向けて、直接的な交流及び共同学習の充実、副次的な籍への対応、地域住民とのつながり等をさらに進める必要がある。また、学校の取組を地域等へ発信する方法について、具体的に取組む必要がある。 ・児童生徒や保護者が、安全で安心できる学校であると意識できるよう、命を大切にする教育や人権教育、いじめ防止の取組等について、組織的な指導・支援の実施及び充実を図る必要である。
	学校運営等	・児童生徒及び保護者、関係者から信頼を得られるよう、不祥事を自分事として捉えたとともに、体罰等によらない指導・支援の徹底と、児童生徒の人権を尊重した教育活動を推進する必要がある。 ・教職員が、自らの指導・支援に自信を持って意欲的・積極的に取り組むことができるよう、外部からの専門家等を定期的に招聘して学び合う機会を設定するなど、専門性の維持・向上につながる研修体制を構築する必要がある。 ・児童生徒増に伴う教室不足について、今後の方向性も含めて関係機関等と連携して具体的な対応を検討する必要がある。 ・南海トラフ地震発令時及び震度5強以上の地震発令時の対応について、教職員間での共通理解を図り、地域との連携方法等を具体的に検討する必要がある。 ・市町教育委員会との連携と巡回相談、高等学校への支援など、地域の支援体制の充実と特別支援教育推進に係るセンター的機能の役割を果たす必要がある。 ・教職員がやりがいを持てるよう、職場環境の整備や業務内容の精選、総勤務時間の縮減など、働きやすい職場環境づくりに取り組む必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	・各学部で具体的にテーマを設定し、系統性のあるキャリア教育の充実に向けた教育実践を推進する。 ・地域における障がい者理解や児童生徒の自立と社会参加に向けて、交流及び共同学習を推進する。 ・命を大切にする教育、人権教育、いじめ防止の取組等において、児童生徒の生きる力を育むための組織的な指導・支援の充実を図る。
学校運営等	・不祥事を自分事として捉え、自己の使命と職責の重さを自覚し、公務内外を問わず、保護者・関係者からの信頼向上と不祥事根絶に取り組む。 ・施設の狭隘化など、本校の今後について関係機関と十分に協議する。 ・児童生徒の多様化や状況の変化、発達に対応した教育を進めるため、特別支援教育に係る教職員の専門性の維持・向上を目指した研修を実施する。 ・危機管理マニュアルを見直し、非常時における対応について教職員間での共通理解を図るとともに、地域との具体的な連携方法等を検討する。 ・市町教育委員会との連携、高等学校への支援、地域の学校や関係機関への情報発信を進め、地域におけるセンター的機能を発揮する。 ・職場環境や業務内容の精選、総勤務時間の縮減など、働きやすい職場環境づくりを進める。

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
「西日野キャリアプラン」を	○(小学部)自分の役割がわかり、最後までやり遂げる力を育てる。 【活動指標】	(年度末および適宜記載)	◎

活用した教育実践の充実	・学習活動や余暇活動での準備や片付け等の場面を設定 ・学習グループでの係活動や手伝いなど、児童一人ひとりの活動の幅を拡大 【成果指標】 ・学年で学期に1回以上、合同授業の場面設定や児童の役割を見直して教職員間で共有。学習グループでは、児童一人ひとりの役割を見直し、内容の追加を随時検討 ・年度末にまとめを学年、学部で共有 ○(中学部)各作業学習班での活動を通じて、働く意欲や姿勢を身につけられるようにする。 【活動指標】 ・各作業学習班で、教室の環境整備を推進 ・生徒の実態に応じた作業内容や環境設定の提供、集団の中でもやり遂げられる状況づくり、達成感を感じられるような実践を推進 ・高等部の作業学習の見学など、他学部と連携した系統的な学びを実践 【成果指標】 ・「できる状況づくり」への評価・改善についての共通理解：学期に1回、話し合いの場を設定、アンケートの実施 ・高等部作業学習見学への教員の参加：100% ○(高等部)職業・社会生活能力の獲得と、自分らしく生きる力を育てる。 【活動指標】 ・作業・職業コースでは、週1回程度、実態に応じた進路学習の時間を設定。生活コースでは、卒業後の生活を見据えた支援を実施 ・現場実習前に本人・保護者と目標を設定、実習後に目標達成度や課題等を確認 ・集団でのルールを守り、仲間との関わりを通して学ぶ活動の機会を設定 【成果指標】 ・進路学習に関する取組を記録：100% ・日常生活や現場実習における生徒の様子や課題等の情報を学部会、学年会、コース会で共有：随時 ・コースを越えた学年集会を実施：年3回以上 ○(全体)進路先・家庭・地域の中で「自分らしく生きる力」を育てるため、学部間でのつながりを大切にしたキャリア発達に取り組む。 【活動指標】 ・関係機関や保護者との連携をもとに、小中高と途切れることなくつながられる支援に係る研修を、学部を超えた縦割りグループで実施 ・教職員を対象とした福祉施設見学を実施 【成果指標】 ・各学部で西日野キャリアプランを用いて途切れのない支援について話し合う機会を設定：年1回以上 ・新転任者対象の福祉施設見学の実施：年1回以上 ・教職員対象 福祉施設・企業見学：年1回以上		
--------------------	---	--	--

地域における障がい者理解・交流	○交流学习の互いを尊重し合う機会を通して、地域とのつながりを深める。 【活動指標】 ・互いを理解し、尊重し合う機会となる交流学习を実施 ・副次的な籍の導入に向けて具体的に協議 【成果指標】 ・全学部で直接的な学校間交流の実施:年1回以上 ・小中学部希望者の居住地校交流の実施:随時		※
命を大切にする教育、人権教育、いじめ防止の取り組みを充実	○児童生徒の実態に応じて、自分自身並びに他者の命を守るための学習に取り組む。いじめや人権問題を含む問題行動等の未然防止・早期発見・早期解決に努める。 【活動指標】 ・「命の大切さ」や「人の感情」「セルフコントロール」等に関する学習を実施(性の学習、交通マナーやスマートフォンの適切な使い方、SNSの利用方法、いじめ防止に向けた学習を含む) 【成果指標】 ・各オリエンテーションや性の学習を実施:年2～3回 - 記録を保存して全教職員に周知:随時 ・生徒の声や取組内容を人権新聞や人権CMとして作成、全体へ周知:随時		◎
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教職員の専門性と授業力向上	○外部専門家等を招聘して、日常の指導・支援に役立つ基礎的な内容を中心とした研修会を実施するなど、校内外の学びの機会を提供する。 【活動指標】 ・外部講師による専門性向上を目指した研修会を実施 ・学校外の研修会について積極的に情報を提供 【成果指標】 ・専門性の向上を目指した研修会を実施:年10回以上 ・外部講師による研修会の満足度(80%以上)	(年度末および適宜記載)	◎
センター的機能の充実	○地域向けの体験研修会や学区内の保幼小中高への支援など、センター的機能を発揮して地域の支援体制の充実を図る。 【活動指標】 ・地域向けの体験研修会を実施 ・相談の要請などを通じて、支援内容に関して助言や提案 ・高等学校の通級による指導への支援 【成果指標】 ・地域向け体験研修会参加者の満足度:80%以上 ・校外支援の実施:年25回以上		※

信頼される 学校づくり	○コンプライアンス遵守の徹底や人権意識の向上により、信頼される学校づくりを推進する。 【活動指標】 ・人権教育やコンプライアンス遵守の徹底に係る取組の実施 ・個人情報の保護と管理の徹底 【成果指標】 ・人権研修の実施:年2回 ・不祥事チェックシートの実施:学期に1回程度		※
危機管理体制の強化	○児童生徒、教職員の災害等に対する実践的な対応能力を高めるとともに、学校全体の防災体制を整える。 【活動指標】 ・防災教育(避難訓練、地域・保護者との連携等)、安全点検の実施:各年3回 ・地域での合同防災訓練の実施:年1回 ・教職員対象研修・救急法講習の実施:年2回 ・危機管理マニュアルの点検及び更新 ・スクールバス避難訓練の実施:年1回 ・自主通学登下校指導:随時 【成果指標】 ・救急法講習受講者の知識理解度:80%		※
働きやすい 職場づくり の推進	○教職員一人ひとりが働きやすさを実感できる環境づくりに取り組む。 ○業務の合理化・見える化を進め、教職員の過重労働を削減する。 【活動指標】 ・設定日に、定時退校できた教職員の割合:70%以上 ・会議等が60以内に終了した割合:80%以上 ・学校閉校日の設定:年4日 【成果指標】 ・年360時間を超える時間外労働者数:0人 ・一人当たりの月平均時間外労働時間:30時間以下 ・月45時間を超える時間外労働者:0人 ・一人当たりの年間休暇取得日数:15日以上		※
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	(年度末に記載)
-----------------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	(年度末に記載)
学校運営について の改善策	(年度末に記載)